

---

イスラエルの回復のために祈りましょう

## イスラエルのイラク系ユダヤ人

人口:23,9000 人

✿その後、主はアブラムに仰せられた。

「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」(創世記 12:1-3)

✿こうして、アブラムは家族を召集し、身の回りを整え、ウルという地(現在のイラク南部)から旅立った。ということは、ユダヤ人の父であるアブラハムは、実はイラクから来た者だったのだ! 今日、イラクに残っているユダヤ人は 120 人にすぎない。ほとんどのユダヤ人はアブラハムの歩みにならって、イスラエルの地に移住した。イスラエルには、イラク生まれのユダヤ人が、およそ 11 万4千人住んでいる。彼らの子孫を計算に入れると、総数は 23 万9千人にも上る。

✿イラクでのユダヤ人の生活は、紀元前6世紀のバビロンによる征服に端を発し、当時の多くのユダヤ人は、捕囚としてバビロンに強制移住させられた。70 年間の捕囚期間の後、多くの人々はイスラエルに戻ったが、イラク(バビロン)に残った人もいた。それらの人々の生活は豊かであった。彼らは、イスラエルとの関係を常に親密に保っていた。また、ユダヤ教を守り続けたイラクのユダヤ人からは、高いレベルの教育を受けた宗教学者もたくさん出た。6世紀に、こうした学者たちが、バビロニア・タルムード(ラビたちによる注解書)を生み出したのである。その後もユダヤ人は安定した生活を送り、時折生活に対する規制もあったが、いずれも一時的なものだった。イラクのユダヤ人共同体は、力と成功を手に入れ、その繁栄は 20 世紀まで続いた。しかし、1932 年、その共同体の平和な日々は打ち砕かれる。イラクがイギリスの支配から独立すると、ユダヤ人の将来に暗雲がたれ込めた。厳しい差別的な法律が成立し、ユダヤ人は攻撃され、暴力をふるわれ、時には殺害された。ユダヤ人の共同体は一連の大虐殺で苦しめられ、さらに第二次世界大戦では、イラクがドイツと同盟関係を結んだために、事態はますます悪化した。そのため、多くのユダヤ人は 1948 年から 50 年に、イスラエルへの移住を、それが当時の違法であっても断行したのである。残された共同体は、「エズラとネヘミヤ作戦」という、50 年代の一連の空輸作戦で帰還した。

✿所有物を奪い取られたイラクからのユダヤ人は、イスラエルに入る時点では 140 ドル程度のお金、それに身にまとった服と両手で抱えられる荷物しか持っていない人が多かった。彼らはイスラエル全土に散らばり、主に各地の都市に定住した。イラク系のユダヤ人は、一般にはほかのセファルディ系のユダヤ人よりも学歴が高いため、イスラエル社会にうまく溶け込めた。今や、イスラエルの中流階級の一端を担うイラク系のユダヤ人は、さまざまな分野で専門職に就いている。信心深

い人、あるいは伝統を守る人が多く、イスラエルの重立ったラビのうちの何人かは、イラク出身である。

✿イラク系のユダヤ人は、自分の共同体、出版物、シナゴグをもっており、自分の図書館と博物館さえも所有している。

---



## 祈りの課題

✧バビロン・タルムードの影響で発達した人間中心の宗教に立ち向かい、この霊的要塞が破られるように。

✧愛の心が、彼らの恐怖を取り除くように。

✧イラクを発つ以前からの迫害による傷を、主が癒やしてくださるように。

✧イラク系ユダヤ人が、主が彼らのためにもっておられる、ご計画と召しを成し遂げるために立ち上がるように。

✧イエシュア(イエス)が自分のメシアであることを、イラク系ユダヤ人が啓示を通して知ることができるように。

✧この共同体に伝道する働き人たちのために。

✧まだイラクに残っている、約 120 人のユダヤ人が守られるように。また、彼らがイラクから離れることができるように。

---